

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500098		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホームあゆむ		
所在地	大阪府池田市室町7番7号		
自己評価作成日	令和4年8月16日	評価結果市町村受理日	令和4年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあゆむではイベントや季節の行事、誕生日会など大切にしています。施設の1階には保育園があり声が聞こえてくることに利用者様喜んでおられます。コロナで園庭で一緒に遊んだり、イベントに参加できないですがコロナの前には一緒に交流したり園児が2回に遊びに来たりしていました

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、地域に密着したサポート体制を取り、住宅型有料老人ホームや小規模多機能型居宅介護等を運営している。グループホームあゆむは静かな住宅街に位置し1階に併設の保育園がある。園児たちのたくさんの笑顔を見て触れ合いを大切にしている。食事は献立・買い物は職員が担当、調理は3名の専従員が交代で朝昼晩に出来立ての美味しい料理を提供している。利用者からのリクエストには出来るだけ応え、食事を楽しめるよう支援している。理念の「しあわせになること・しあわせであること」をもとに利用者の「したい」「やりたい」を優先し生きがいと役割を持てる暮らしを支援している。利用者は、新聞取りや食事の準備等を日課とし、職員(20代から60代で40代が中心)と一緒にアットホームな家族を作り上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人が笑顔で一つの輪になるようにということを掲げ利用者様とスタッフが笑顔で生活していただくようにしています スタッフに伝え見える場所に掲示している	法人理念は玄関先に掲げ、事業所理念の「一人一人が笑顔で一つの輪になるように」を朝礼時や月1回のあゆみミーティング・申し送り時に声を出して理念の重要さを確認し、利用者と職員が笑顔で生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係で地域との交流が難しい状況ですが連絡や日常の様子を運営推進会議の資料として地域の方に伝えるようにしています	自治会に加入し職員が地域の防災訓練に参加して交流を深めている。コロナ禍の為に地域との交流は難しいが、今年は地域の協力で優先的に誘導をしてもらい近隣の神社へ初詣に出掛ける事ができた。併設の保育園児の笑い声やなき声などに包まれて地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフがキャラバンメイトとなり地域での認知症サポーター養成講座を行っている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行っていますがコロナの影響で報告のみ資料で作成していません 行事やイベントも現在中止しています	2か月に1回、家族や神社宮司・民生委員・市職員等の参加で行ってきたがコロナ禍のため書面開催となっている。利用者の現状報告や行事報告・事故報告等を記載して、記録は従来の出席者や家族に送付している。	報告書を作成し各関係者に送付をしているが、報告書送付に併せて意見や要望を聞き取り、議事録にまとめ次回の会議に反映することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方や地域包括の方と連携をとり何かあった場合は連絡や相談などして対応してくださっています	地域支援課から感染症の研修の案内が届いたりグループホーム連絡会があり部屋の空き状況や意見交換をしている。施設の定員割れ状態が続いているので短期利用者の受け入れを検討し、メールや電話で取り合っ施設の充実を図ろうと模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階入り口に関してはご家族様の希望があり危険防止のために施錠しています。身体拘束が必要な場合は家族様に説明しています。2週間に1回カンファレンスを行い身体拘束についてスタッフに伝えています	「身体拘束の適正化のための指針」を作成している。法人で行う委員会と研修会に管理者が出席して事業所の職員に伝達研修を行い知識向上に努めている。外出したい利用者への対応はいつでも対応出来るよう支援している。「ちょっとまって」などのスピーチロックに対してはその都度管理者が注意している。1名家族の同意を得てセンサーを使用している利用者がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会を行い、各事業所で社内研修として伝えるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学ぶ時間を作る 成年後見制度についてあまり理解できていない。今後積極的に取り組んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に時間がかかることを伝え当日時間をいただき説明しています。不明なところや質問はその場で対応しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者様の状況を説明させていただき質問や要望をお伺いしています。発言しにくい場合は2階入り口に意見箱を設置している	面会時に質問や要望を、ラインやメッセージ・電話などで家族からの意見を聞くよう心掛けている。2階入り口に意見箱を設置している。毎月請求書発行の際、日常生活での様子の写真や手紙を添えて家族に送付している。食事の献立について食べたいものの要望があれば直ぐに反映出来る体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフと積極的にコミュニケーションをとったり1対1で話す機会を作っています 対応できることは出来る限り早く対応するようにしています	職員同士でグループラインをつくり、連絡事項を共有し申し送りノートを使い意見を聞く機会にしている。利用者の一人の水分量が少ないとの意見には取りやすいゼリ状一の食品を提案する等し、利用者の健康維持に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境づくりスタッフが同士が向上心を持ち働けるようにお互い声を掛け対応しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の社内研修をスタッフに発表してもらったり全員が勉強できる取り組みをしています 新人スタッフの指導も時間をかけてしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期定期的に市内のグループホームの会で管理者やケアマネジャーが参加し意見交換や勉強会をしていましたがコロナの影響で書面で必要時報告や空席状況などを伝え市役所においていただいている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけコミュニケーションをとっています。利用者様や家族様に聞き取り信頼関係を築けるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで家族様の要望や悩み事などお聞きしスタッフ間で共有し家族様の要望に答えられるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって何が必要かを見極めスタッフ、家族様、利用者様も入り話し合う機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境で家族としてお互いが支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様との関係を大切にしています。外食、外出などは現在控えていただいておりますが面会などで話をしたり一緒に過ごしていただく時間を作って頂くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの場所やお店、なじみの方とお話をされる機会があります	コロナ禍の為、馴染みの人との交流の継続は難しいが、近隣を散歩中し友人と会って挨拶を交わしている。電話の取り次ぎや家族への手紙のやり取りなどの手伝いを支援し、馴染みの人との関係を大事にしたいと思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士協力し合い洗濯物を畳んだり、洗い物をしたり家事などを一緒にし支えあい生活している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあった際は必要に応じて相談や情報を提供している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様や利用者様からの聞き取りスタッフの気づきなど情報を集めています 本人様の思いや意向の把握に努めています	家族に電話をしてほしい、来てほしい、化粧品を買いたいなどの要望にはすぐに対応している。不安にならないよう聞き取りやすい雰囲気を作り、意向や希望を引き出し、その人らしい暮らしが出来るように職員間で話し合い実現につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に聞き取り、情報を集めスタッフ間で共有するように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その都度スタッフで情報を共有しカンファレンスを行い状態の把握に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様、スタッフ、ケアマネジャーで話し合い医師、看護師と連携をとり意見を出し合い介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネジャーを中心に家族・利用者・医師・スタッフで話し合い、利用者本位をもっとうに笑顔のできる生活を思い作成している。長期目標1年、短期目標6か月として状態変化時は、その都度状況にあった計画を作成して家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙に個々の短期目標を入れておりその目標に向けてスタッフがケアしています。申し送ノートなどを活用しケアの変更、口頭で情報を共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所だけですべてを対応せずご家族様にも協力していただき、事業所内だけのサービスだけではなく、その時々合わせた柔軟なサービスを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで地域の行事に参加できない状態ですが、コロナが落ち着いてくるタイミングで外出や買い物、利用者様1人1人に合わせて楽しみを作るようにしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は24時間対応可能な在宅医療の医師と連携をとっている。かかりつけに整形外科に受診しています。往診には皮膚科、リハビリ、契約の歯科など適切な医療を支援している	入所時に家族・本人と話し合い全員が協力医（在宅医）の内科を主治医としている。平日はほぼ毎日訪問診療に訪れ、夜間や緊急時にも往診で対応可能、個別契約の2箇所の訪問看護師の定期訪問もある。歯科医と皮膚科が月1回訪問している。看護師資格を有する介護職の職員も在籍するなど医療面でも万全の体制で安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の在宅医療の医師、24時間体制の訪問看護師と連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院時はカンファレンスを行っていただいている。利用者様の情報提供、電話などで連絡を取り情報収集。連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所のこと、対応などを説明している。入居時、入居されてからも状態が変化することでご家族様、医師、看護師、訪問看護、ケアマネジャー、管理者でカンファレンスを行っている	今年度は2名の看取りを経験した。エンゼルケアは看護師だけではなく管理者・ベテランの職員も行う。デスクカンファレンス(看取りケアの振り返り)では職員全員で意見交換しメンタル面をサポートしている。家族からのアンケートには感謝の言葉は勿論だが手厳しい意見も参考にし、今後の看取りケアの質向上に活かす取組みがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応はその都度スタッフでカンファレンスや会議の際に対応など伝えていきます。訓練や全員が実践して対応までは出来ていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などで地域の方や市の職員の方と話をしています。保育園と合同訓練をしています。現在は別々で対応をしており、使用方法や誘導方法、避難場所など説明しています。	BCP策定は法人本部主導で進行中である。今年度は4月に地震による火災想定で訓練をおこなっている。利用者の参加は見合わせているが、避難場所・避難経路・消火器の場所を確認し、館内に米やインスタント麺など4日分を備蓄しているが、隣接する呉服神社が境内に当施設用にと十分な量の水などを保管してくれており非常に心強い。	ここ数年昼間想定のための訓練が続いている。次回には職員が手薄で問題の多い夜間を想定した訓練の実施を望む。全職員の訓練参加は不可欠であり、未体験の職員を優先した日程調整を行い、全ての職員を訓練に参加させる取組を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを基本とし不適な言葉が出た時には職員同士注意しながら対応しています。会議の時に定期的にスタッフに伝えています	「馴れ合い」からくる職員の不適切な言動には日頃から注意し合っている。「敬語を基本として苗字で呼ぶ。入室時には声かけやノックで必ず確認する。トイレ誘導での声かけは周りに聞かれないよう小さな声で促す。」等を心掛けて支援にあたっている。個人情報の書類管理は適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症があって自己決定することが困難な利用者様にはスタッフが表情をくみ取るように務めている。気を使われている利用者様には積極的に声をかけ傾聴し対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務優先になっているところはあります。利用者様1人1人のペースを大切にしその人らしい暮らしを提供していきます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や帽子、靴などお好きな色、形などを選んでいただいたり買い物に出かけたりしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにその日のメニューをホワイトボードに記入しています。体操時に読み上げています。利用者様が献立を決めていただいたり、調理、片付け、買い物を一緒に行っていたり利用者様の能力に合わせて協力していただいています	開設以来事業所での手作り料理が提供されている。3名の専従員が交代で調理し利用者は調理時のにおいや音を感じながら出来たての美味しい料理を味わえる。職員が献立をつくり買い物にも行っている。利用者は下ごしらえ・洗い物など分担して調理に参加している。最近は手作りおやつ(モンブラン・ワッフルなど)の回数を増やし楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事は記録し管理しています。食事量や水分量が減ってきた場合は医師に相談し対応しています。エンシュアリキッドやメイバランスなどを使用したりしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。利用者様にに応じてスタッフが仕上げ磨きや義歯を洗浄しています。家族様に確認し訪問歯科も利用しています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけトイレ誘導の時間やパターンを把握できるようにしています。自分で訴えられない方もおられるためトイレの声掛けをしています	排泄表や仕草から判断し適切なタイミングでトイレに誘導しゆっくり便座に座ってもらう時間をとるなど、トイレでの排泄を重視した支援をおこなっている。布パンツのみの利用者や完全オムツの利用者もいる。排泄用品(パット・リハビリパンツ他)については職員間で情報交換し最適な物を検討している。居室でポータブルトイレを使う利用者は1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	事業所内で出来る運動などを行っています水分や食事も工夫しています。便が出にくい時は主治医に相談し下剤を服用しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回月木、火金で対応しています。曜日は決めているが体調やバイタル、気分に合わせて対応しています	最低週2回を入浴日とし汗をかく夏場には回数を増やしている。浴槽(家庭用)を跨げない重度者にはシャワー浴や足浴で清潔保持に努めている。一人で入浴を希望する者にはドア越しに見守りながら声かけをし安全を確認している。頂き物のユズや菖蒲を入れ季節湯を楽しんで貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様に応じて横になることが必要な方には休んで頂いています。体調や気分に合わせても休息していただいています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明は誰もがみれるように準備している薬の変更があった際には口頭や申し送りを必ず行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所内でカラオケをしたり、トランプをしたりその時の利用者様の状態や気分に合わせて2~3人ですることあれば複数ですることあります		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナもあって必要な買い物は一緒に行っているがそれ以外は控えています。家族様で出かける時は人が多いところは避けていただきながら行きたいところへ車や散歩など外出していただいております	10分から20分の近所(呉服神社や駅前・室町周辺)を一周する散歩をシルバーカーや車椅子で毎日続けている。化粧品を買いに行くこともある。新聞取り・洗濯物干し・階段を利用して園庭へ出てティータイムやお喋りを楽しんでもらうなど「運動と外気浴」をかねたルーティンとし各自のケアプランに組み込んでいる	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状お金を管理するのは難しく自身で管理したり、お金を預かったりはしていません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らは行っておりません。ご家族様に了解のもと、スタッフから電話をつなぎ家族様と本人様が電話のやり取りができるように支援しております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでの席などは混乱しないように利用者様に声を掛けながら決めています。室温管理、利用者様の作品などは各居室や廊下などに飾らせていただいております	併設の保育園から子供達のかわいい声が聞こえてくる。階段には昇降機が設置されている。2階の3部屋分を改修したフロア(食堂兼リビング・居室)は広くはないが採光が良くとても明るい。過度な飾り付けを控えており、施設感はなく一般家庭の温かい雰囲気がある。利用者はお気に入りの席で新聞を読んだりゲームをしたりと、自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、利用者様がテレビを観やすいところに移動していただいたり席を移動し一緒に利用者様同士がかたまったり、1対1でスタッフと利用者様がコミュニケーションをとったりして過ごしていただいております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様個人が持ってこられた家具や写真などを置いていただき今まで住まれていた家と同じような環境づくりをしています	日当たりの良い居室には予めエアコン・ベッド・クロゼット・カーテンを設置している。利用者は筆筒・衣装ケース・椅子・テレビなどを持ち込み、家族の写真などを飾っている。裸足でベッドから降りる利用者のため冬にはパズルマットを敷いている部屋もある。利用者は出来る範囲で「モップや掃除機」掛けを職員と共に行い居心地よい居室は清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の能力に合わせて自立して生活ができるように支援しそれぞれに合わせた対応をし安全な環境づくりをしています		